

養魚経営に関する研究

(39年度)

一養鱒経営業者の生産費調査

立川 互

1. 目的

養殖ニジマスの生産は、近年急激に増えており、新しい市場開拓が伴わないと製品の販路に行きづまり易い。鮮魚或は活魚として消費される魚であるから、貯蔵ができないし、商品として大きさの規格があるから、売れるまで飼つておくということもできない。そのため少しでも生産過剰の状態になると、組織的な販売力が弱いため、養殖業者は価格競争によつて売り急ぐことになる。時には赤字販売と思われるような価格で取引される例もあるようであり、価格の安定或は共販制度の道を開くために、生産原価の調査が要望されるに至つた。

次に述べるのは、岐阜県下の経営体調査の一例である。

2. 生産費計算の方法

淡水区水産研究所昭和39年10月：「養鱒業生産費計算の方法」に準拠したがその概要を述べると次の通りである。

種苗購入から育成販売までを一周期とするものであるが、普通1年を超えるから、継続経営であること、或る時点では生産過程の重複がある。本例の場合、5月1日より翌年5月31日までの13ヶ月間をもつて1周期とするのが最も適当と考えた。重複部分及び他魚種部分については、出来る限り生産費を分割して、純粋にマス1周期部分の生産費負担を把握するよう努力した。

1. 種苗費

購入金額

2. 餌料費

使用料×単価

3. 固定資産消却費

農家の副業であるから、生産費計算に繰り入れる固定資産としては、造池費用のみをとりあげた。

消却費の算出法は $\frac{\text{造池費用}}{\text{耐用年数}}$ とし、使用状況に応じて月別負担率を乗じた。

4 労働費

大部分自家手間で賃金を支払わないから評価が浮動し易いが、本例の場合は、労働の軽重を区別せず、一時間当りの労働単価を100円とし、実働時間数を乗じて労働費としたから、考え方によつては過少と考えられるかも知れない。

5 修繕費

全部自家定間によつているため、資材費と労働費に振り分けた。

6 資本金子

次の3要素の合計額である。

- (ア) 流動資本総額の $1/2 \times$ 年利率 (6%)
- (イ) 期首固定資産在り高のうち、実際に生産に使用した資本分 \times 年利率 (6%)
- (ウ) 地代 (自己所有地であるが、水田賃貸の地域相場を準用した)

7 その他経費

販売経費と公祖公課、雑費等

8 資材費

購入価格を消費事実に基づき、消却するものとした。

3. 調査の結果

調査の結果は別表に示す通りである。

岐阜県の場合、マス養殖は農家の副業でやる小規模の経営体が多く、ここに記載した例はその標準モデルと見做せる。経営の概要を述べると、農業の片手間にやる極く小規模の経営体で、立地条件は恵まれている。池は総水面積90m²であるが、30m²は鯉の養殖に使用、60m²をマス養殖に使用している。春稚魚放養時にはまだ前年の売れ残りが若干あり、従つて経費は共用部分が多分にあるため、適当に按分して、39年度産マスの負担部分を概算した。養殖形態としては、春稚魚を購入して70~150g位の大きさの食用魚を生産するのであるが、39年度は、秋に大型種苗を購入補充したため、生産費構成の種苗費の比率が非常に高く、餌料費が低くなつている。

生産費総額は190,750円

生産量は 出荷(平均体重70g) 470K

〃 (〃 110g) 265K

残り在庫(平均体重120g) 50K

計 (" 82g) 785K

当り生産費は平均243円であつた。

秋に購入した種苗は2口あり、いずれも平均体重30gであるが、購入単価が異り一口は90kgを単価240円、もう一口は27kgを単価274円、両者を平均して単価386円であるが、自家生産原価を計算すると30gの魚では360円になり、購入価格より26円安く生産できる。従つて秋に購入した大型種苗も自家生産したとして換算するならば、生産費総額は約3000円少なくなり、kg当り生産費も約240円に下がる。

マス養殖生産費調査 岐阜県A経営体 昭和39年5月1日～昭和40年5月31日 (13ヶ月間)

年月	種苗費	餌料費	固定資産 消耗費	労務費	動力光熱 水利費	修繕費	資本利子	その他経費	固定資産	資材費	販 売 量	月 末 在 庫	生 産 費
39.5	10,200円 (0.6g/600尾)	1,500	200	2,500	0	0	750	0	0	500			15,650 円
6		2,000	200	2,500	0	0	750	0	0	600		(5g)	6,050
7		4,000	400	3,000	0	0	750	0	0	300		(10)	8,450
8		3,600	400	3,000	0	0	750	1,700	0	600		(16)	10,050
9		2,600	600	3,000	0	0	750	0	0	400		(34)	14,350
10		10,800	600	5,500	0	0	750	0	0	300	110K		17,950
11	45,200 (30g/117尾)	6,400	700	6,000	0	0	750	0	0	1,000			60,050
12		5,800	700	2,500	0	0	750	700	0	1,000			11,450
40.1		3,300	700	1,800	0	0	750	0	0	300			6,850
2		3,300	700	1,500	0	0	750	200	0	900			7,350
3		6,400	700	2,300	0	0	750	1,000	0	300			11,450
4		5,600	700	4,000	0	0	750	600	0	600			12,250
5		3,600	400	3,800	0	0	750	0	0	300		(120g)	8,850
計	55,400	65,900	7,000	41,400	0	0	9,750	4,200	0	7,100			190,750
%	29.0	34.6	3.7	21.6	0	0	5.1	2.2	0	3.7			100

註 池面積 90㎡ 但し内30㎡は罾専用であるからマスに使用するのは60㎡

水 量 30ℓ/sec 河川水

従事する人 最高2人

期首在庫 0

期末在庫 平均体重120g 50kg